

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>本事業は、「地域住民の生活基盤の安定と生命安全の確保」及び「不発弾処理技術の向上による犠牲者の減少」を上位目標とし、不発弾処理においては、クラスター子弾等による不発弾汚染地域 152ha の安全化を行い地域住民の生活基盤の安定化に寄与した。また、UXO Lao-ATP 隊員に対して不発弾処理技術移譲を行い不発弾処理の促進と住民生活の安全性向上に寄与した。前年度に引き続き 2013 年度も県内の不発弾事故はなく、3 年間を通して犠牲者はゼロであった。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) 不発弾処理活動 UXO Lao-ATP の 7 個処理チームと協同で不発弾処理活動を実施した。</p> <p>(イ) 技術移譲 (a) 不発弾処理技術移譲 UXO Lao-ATP 隊員が、JMAS 専門家の不発弾処理技術を修得し不発弾処理を安全かつ効率的に実施し得る基盤を構築するため、年間計画を作成し、不発弾処理現場を教育の場として、学科（計画教育）と実技（OJT）による教育を行った。特に、実技（OJT）の指導に重点を置き UXO Lao-ATP の処理チームを主対象として技術移譲を実施した。また、随行指導による技術移譲を実施し大型爆弾等の不発弾処理教育を集中的に実施した。</p>
(3) 達成された成果	<p>(ア) 不発弾処理 不発弾汚染地域 5 個郡 55 カ村 152ha を安全化し地域住民の生活環境の改善を図った。目標面積 145ha に対し 105% の達成率であった。処理した不発弾は、大型爆弾 17 発、クラスター子弾 1,046 発、砲弾等 1,112 発の合計 2,175 発であった。安全化した土地 152ha の内、103ha が新しい農耕地として利用され生産高の向上に寄与し、49ha が村の拡張や新規の村づくり、公共施設などとして利用され地域住民の生活基盤の構築に寄与した。3 年間の成果は、安全化面積 399ha（達成率 99%）、処理した不発弾は、4,639 発であった。</p> <p>(イ) 技術移譲 (a) 不発弾処理技術移譲 JMAS 専門家は、UXO Lao-ATP 隊員 78 名（中間報告時に対象者を 73 名から 78 名に修正済み）に対して不発弾処理技術移譲を実施した。年間実施目標合計 232 回に対し 232 回を実施した。（達成率：100%）主対象である 7 個処理チームの隊員評価結果では、上級不発弾処理技能者（以下 SEOD）2 名、チーム・リーダー 8 名、一般隊員 68 名は、新任者を除きそれぞれの目標レベルに到達しており年度到達目標は達成できた。また、UXO Lao 全体に対する不発弾処理技術移譲の基盤を構築するため、アッタプー県と同様に、大型爆弾等が多く発見されている南部 2 県（セーコン県・サラワン県）の UXO Lao 隊員（SEOD）4 名、及び UXO Lao 全体の教育を行っているトレーニング・センターの教官等 4 名への研修を実施し、ほぼ目標を達成したが、爆弾のこぎりカット法については、一人あたりの信管付きの実爆弾による実習回数が不十分であった。 2014 年 1 月に 3 回目の爆弾のこぎりカット法試験を実施し、ラオス</p>

	<p>不発弾処理国家調整委員会 (NRA) Phoukhieo CHANTHASOMBOUNE 長官及びラオス不発弾処理機関 (UXO Lao) Thiphasone SOUKHATHAMMAVONG 長官の視察を受けた。両長官から、ラオスにおいても安全性に問題はなく不発弾処理方法の一つとして有効な技法であるとの所見を頂いたため、この技法を UXO Lao 全体に普及させていくための拠り所を得ることができた。</p> <p>(b) その他</p> <p>事業の円滑な実施を図るため、アッタプー県で調整会議を開催し、県・郡等の不発弾業務担当者に対し、事業の現況や不発弾事故事例などを説明し、不発弾処理活動への協力を依頼した。多くの参加者から JMAS に対する謝辞を頂き、活動に対する地元の理解が得られていることを確認できた。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) 不発弾処理</p> <p>県内の不発弾処理は UXO Lao-ATP により継続して実施される。本事業において不発弾処理を行い安全化された土地が、既に田圃、畑に利用されており、安全な農業用地を提供したことにより引き続き生産性の向上が継続される。また、住宅や行政機関の庁舎などの公共施設用地としても利用されており今後生活環境改善に寄与していく。</p> <p>(イ) 技術移譲</p> <p>(a) 安全かつ効率的な不発弾処理体制の確立</p> <p>JMAS 専門家による技術移譲を通じて UXO Lao-ATP 全体の技術レベルが向上したことにより、今後共安全かつ効率的に処理を行う体制が確立、継続される。</p> <p>(b) UXO Lao-ATP 内での訓練体制の確立</p> <p>SEOD 及びチーム・リーダーが自ら UXO Lao-ATP の隊員に対する不発弾処理技術訓練を実施し、JMAS 専門家の技術を伝承していく訓練体制が確立、継続される。</p> <p>(c) UXO Lao 全体への不発弾処理技術移譲の基盤構築</p> <p>南部 2 県 (セーコン県・サラワン県) の UXO Lao 隊員 (SEOD)、及び UXO Lao 全体の教育を行っているトレーニング・センターの教官への研修を実施し、UXO Lao 全体に対する不発弾処理技術移譲の基盤を構築し、今後、JMAS 専門家の技術が UXO Lao 全体に普及されることが期待できる。特にラオスでは行われていないが日本では実績のある爆弾のこぎりカット法を技術移譲するため、延べ 3 回の安全性確認試験を行ってその有効性を実証した。UXO Lao はこの技法を不発弾処理規定 (SOP) に追加するため 7 月に NRA に申請し、10 月に認可された。UXO Lao は今後 JMAS の技術支援を受けてこの技法の普及・定着化を図っていく。</p>